

北松型地すべりの発生機構および予知に関する研究 (第3報)

Studies on the Mechanism and Foreknowledge of the Hokusho Landslides (Report III)

ま え が き

この研究は長崎県北部から佐賀県西部にかけて広く分布する地すべり(しばしば「北松型地すべり」と呼ばれている)の実態を明らかにすることを目的として、昭和41年度から4か年間、特別研究促進調整費によって行なわれたものである。同費による研究期間は一応44年度をもって終ったが、広域および試験地における調査解析は当地域の地すべりに関する基本的問題を解明するために続ける必要があり、鷲尾岳試験地における諸観測は変動様式をとらえるためになお継続する必要があった。幸い長崎県地すべり対策事業のなかで昭和45年度から観測が継続され、データを利用できることとなった。

第3報の内容は、広域にわたり本格的な空中写真判読と踏査にもとづく地すべりの地形発達史的調査研究の成果2編、そのうち1編は先に発行された「1:50,000北松地域地すべり地形分類図」の説明、他の1編は当第3報の付図の説明書の性格を備えている。つづいて「地すべりの博物館」といわれた生月島の地すべりに関する地下構造および地下水の水質に関するもの各1編、鷲尾岳試験地を中心としてすべり面付近の物質を粘土鉱物の面からしらべたもの1編、同試験地に関し地下水の変動状態を観測したもの1編、地表および地中における変動状態を種々の器機で観測したもの2編、試験地付近の岩石のP波速度に関するもの1編および降雨観測資料1編からなっている。

なお、第1報から第3報までの成果に十分な考察・討論を加えた上でそれらの成果を終報として発表したいと本報編者は考えている。

なお、昭和47年4月から同49年3月までの鷲尾岳試験地における諸観測資料は、当所から季刊として公表することとなり、すでに、第6号まで発行されている。当資料をご入用の方は当所までご連絡願いたい。

おわりに、この研究の推進にあたって特別のご配慮をいただいた長崎県関係当局の方々、参加研究機関の研究者・関係部門の方々、また、この研究に有益なご意見をおよせいただいたり、種々ご支援していただいた方々に深い感謝の意を表したい。なお、第1報から第3報までを通して、先学諸賢のご意見ご批判等をいただければ幸甚である。

この研究のアフターケア、成果の総括は第2研究部長高橋博、元同部長丸山文行、地表変動防災研究室長井口英明、元同室長大石道夫、同研究員熊谷貞治・清水文健、および流動研究官大八木規夫が当たった。

* 北松型地すべりの発生機構および予知に関する研究(第1報)、防災科学技術総合研究報告、第22号(1970)

同上 (第2報)、同上、第27号(1971)

なお、「1:50,000北松地域地すべり地形分類図」(国土地理院1970)、および「佐世保北部地域地質図1:25,000」(地質調査所1970)も上記総合研究報告とともに当センターから配布しているので、ご入用の方は当センターへ御連絡いただきたい。